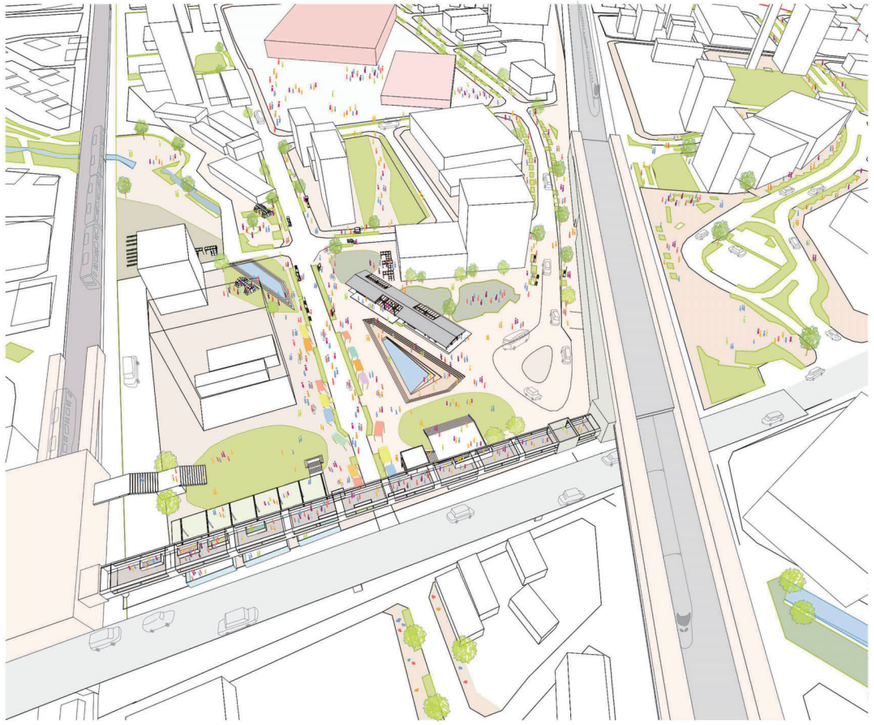
Resource Relation City 三河安城

地域資源を結び付ける事で、通過させない魅力的な街創りを目指す。

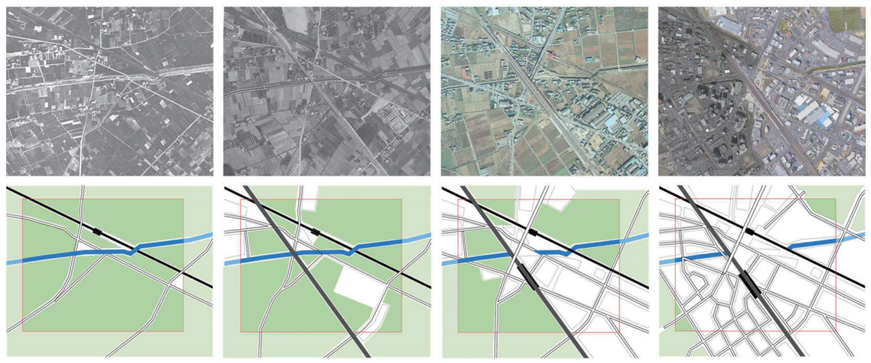


■全体計画

通過するのではなく、この街に目的を持って訪れ、街を楽しめるまち。この街に誇りを持って住み続けれるまち。そんな未来を描き、共有することを目標とする。
既存の地域資源をより魅力的に、より包括的に、より多くの人が関われるような２１世紀の三河安城像を提案する。具体的には、三河安城の魅力的な資源「水路」「駅」「農業」「スポーツ」「文化・歴史」「人」を繋ぎ、新たな資源へと変えてゆくプロジェクトを３つ提案する。これらのプロジェクトはお互いにネットワークを持ち、市民活動やNPO・地域のボランティア団体などと連携することで、地域全体でまちづくり・まちぐらしができると考える。

●水路を繋ぐプロジェクト　●駅を繋ぐプロジェクト　●緑を繋ぐプロジェクト

1948　1967　1987　2010



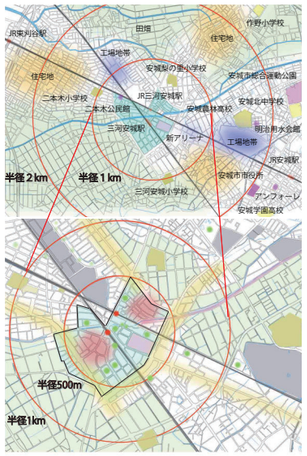
□地域資源図

三河安城駅周辺には、明治時代より農業が盛んに行われ、最先端農業の地として日本のデンマークと呼ばれた「農業」、建設計画中の多目的拠点は最先端アリーナとしてプロバスケットボールのみならず様々な活用予定があり、サイクリングロードなども含めた「スポーツ」、櫻井古墳群、寺院、水の芝しかった碧海台地を豊かな田畑へ変えた明治用水、戦後の工業などの「文化・歴史」といった、地域資源が3つ存在している。

●農業
豊かな田園、地元農家、安城農林高校、農業支援、アグリライフ支援センター、スポット講座、一伊農園
地ビール工房、道の駅デンパーク

●スポーツ
新設アリーナ、安城市スポーツセンターグランド、明治用水サイクリングロード、ソフトボール全国大会、マラソン、駅伝大会

●文化・歴史
明治用水、安祥文化のさと、アンフォーレ、デンパーク、石山丈山、都築弥厚、新美南吉、東海道、鎌倉街道、福釜松平、安城城跡地、寺院、三河一向一揆寺院、明治航空基地、旧産業組合農業倉庫



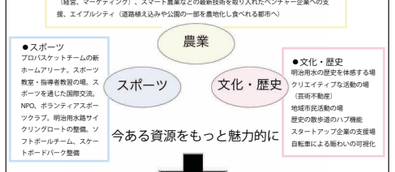
□資源の連携

『農業』『スポーツ』『文化・歴史』を魅力的な資源へ展開して行くための方法、装置、アクティビティを提案する。まだ現状これらの資源は分断されており、個々での活用方法だけでなく『農業ースポーツー文化・歴史』が結びつき新たな資源ネットワークを構築する。既にある魅力を増幅、そして結び付ける事で生まれる新たな三河安城周辺の資源は、ただ消費するのではなく文化として発展していける。

●農業
地元農家の生産物販売、地元農作物を使ったカフェ・マルシェ。安城農林高校生の生産物販売（経営、マーケティング）、スマート農業などの最新技術を取り入れたベンチャー企業への支援、エイブルシティ（道路植え込み中公園の一部を農地化し食べれる都市へ）

●スポーツ
プロバスケットチームの新ホームアリーナ、スポーツ教室・指導者教習の場、スポーツを通じた国際交流、NPO、ボランティアスポーツクラブ、明治用水路サイクリングロードの整備、ソフトボールチーム、スケートボードパーク整備

●文化・歴史
明治用水の歴史を体感する場
クリエイティブな活動の場（芸術不動産）
地域市民活動の場
歴史の散歩道のハブ機能
スタートアップ企業の支援場
自転車による賑わいの可視化

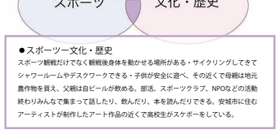


今あるを資源をもっと魅力的に

資源を結ぶ事で生まれる魅力

●農業ースポーツ
スポール観戦に来た人が農作物を使ったカフェなどで飲食・地ビールを飲みながらスポーツ観戦・通勤時自転車で駅前まで来てシェレーバーガルテンで自分の農作物の管理をする

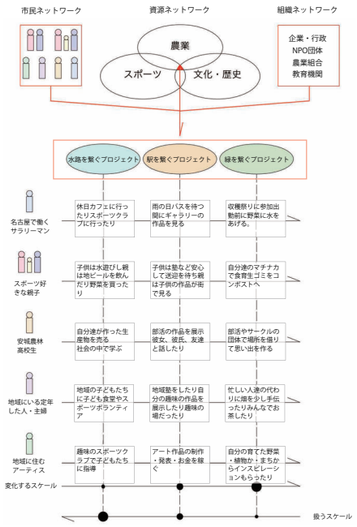
●農業ー文化・歴史
スポーツを通じた国際交流によって外国人、移民を受け入れる土壌が出来る事で将来安城市で農家として働く外国人の増加・シェレーバーガルテンで生産した野菜を使った収穫祭りを行う場・新鮮感を降りたそばにマイクロライブラリーや地元農作物を貸える場所がある。



●スポーツー文化・歴史
スポーツ観戦だけでなく観戦後身体を動かせる場所がある・サイクリングしてそこでシャワールームやデスクワークできる・子供が安全に遊べ、その近くで母親は地元農作物を買え、父親はビールが飲める。飲酒、スポーツクラブ、NPOなどの活動終わりみんなで集まって話したり、飲んだり、本を読んだりできる。安城市に住むアーティストが制作したアート作品の近くで高校生がスケボーをしている。

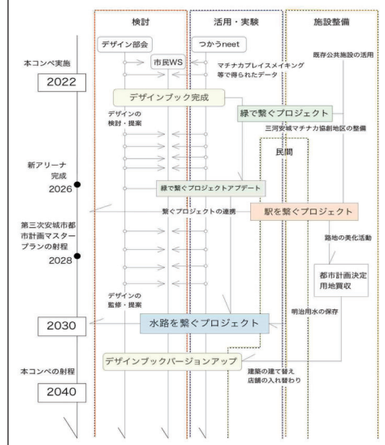
□結び付けたその先

市民ネットワーク・組織ネットワーク・資源ネットワークを活用した、資源を結び付けるためのプロジェクトを3つ提案する。またそれらプロジェクトは市民活動と結び付き横断する事で市民が主体となってエリアを変化させゆく未来をみんなで思い描く事を目指す。



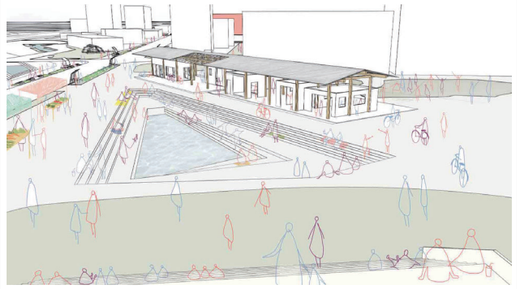
□実現のプロセス

2040年までに三河安城駅周辺を通過させない魅力あるエリアにする為、短・中・長期に渡り「検討」「活用・実験」「民間への働き」をしてゆき実現させてゆく。その時状況に応じた計画のアップデート・各プロジェクトの連携・市民への理解などをを更新させてゆく。



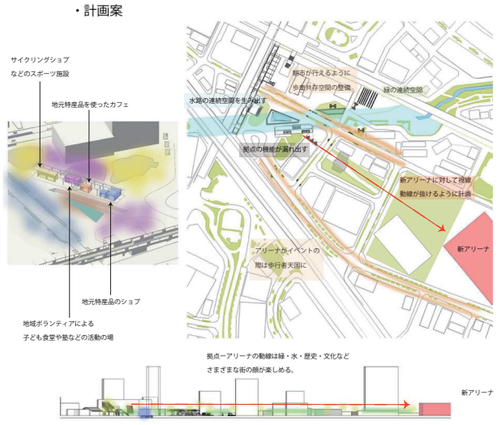
□水路を繋ぐプロジェクト

明治時代に造られ周辺一帯を豊かな田園風景に変えた明治用水は、現在整備が行われサイクリングロードや桜並木と組み合わさり美しい街並みを生み出している。しかし駅前では暗渠されており、この魅力的な資源を使っていないのが現状だと思う。このプロジェクト一部を開渠し明治用水を視覚的に繋ぐだけでなく、明治用水に関わるさまざまな資源をこの場で体験でき、ネットワークの中心拠点を目指ます。



・現在の明治用水

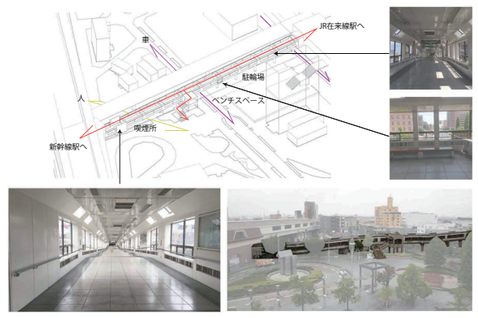
・計画案



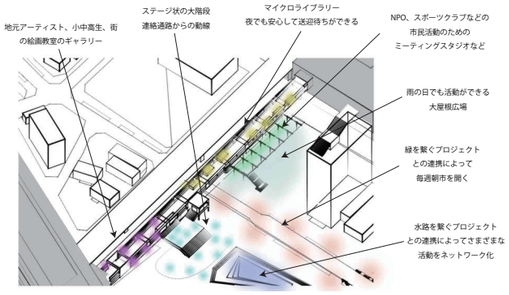
□駅を繋ぐプロジェクト

新幹線・JR在来線駅を繋ぐ連絡通路は約1500mのスロープになっている。立地的、空間的にもまちづくりをする上で重要な資源だと捉え、周辺環境と連携したリノベーションを提案する。このプロジェクトでは駅と駅を繋ぐだけでなく、さまを三河安城の資源を繋げ、通路だけでなく滞在できる空間を内包した魅力的な場所にしていく。

・現在の使われ方



・機能分布



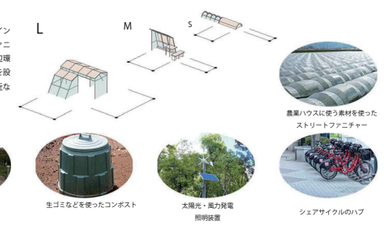
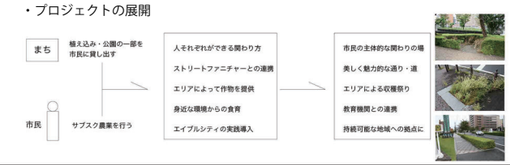
□緑を繋ぐプロジェクト

現在、三河安城駅周辺では都市化によって地域の資源である農業によって生まれる美しい田畑、農作物、農業ネットワークなどが失われつつある。このプロジェクトでは街の植え込みや公園の一部を市民へ貸出、市民が農作物・植物を育て、農作物を育てるだけでなく市民が町を育てていると感じる事ができる場所にしていく事を目指ます。

・エリアによる個性

・ファニチャーのデザイン

ファニチャーを３種類デザインした。歩行空間の有無、ファニチャーに付随する機能、周辺環境に合わせたファニチャーを設置する事で、街に対して身近な所から関わる事ができる。



・プロジェクトの展開